

MRI検査に関する説明・同意書

患者番号

患者氏名

生年月日

年

月

日

性別

☐ 男性

☐ 女性

医療法人 東札幌病院

住所 札幌市白石区東札幌3条3丁目7-35

電話 011-812-2311

検査予定日

年

月

日

検査部位

MR I 検査は、非常に強い磁石と電波を使って、体の断面を撮像する検査です。

①MR I 検査ができない方

- ・心臓ペースメーカー、人工内耳などの電子機器を装着している方
- ・金属を使用したアイシャドウや化粧品、入墨（火傷を生じる可能性があるため）

②下記の項目に該当する方はMR I 検査を行うことが危険です。

- ・脳動脈瘤術後でクリップが使用され、かつ、安全にMR I 検査ができる確認が取れない。
（多くはチタン製などの弱い磁性体クリップで安全にMR I 検査ができます）
- ・金属のステントを挿入して間もない（おおむね6週間以内）
（MR I 検査対応のステントであればできます）
- ・その他の磁性体金属が体内にある、又ははずせない

③下記の項目に該当する方は注意が必要です。

- ・閉所恐怖症、小児（薬を使った入眠処置が必要となることがあります）
- ・妊娠中または妊娠の可能性のある方は、検査を避けてください。
- ・歯科チタン製インプラントは非磁性体であり、MR I 検査において安全とされていますが、磁性体アタッチメント、磁石を使用した義歯では磁石の吸引力が損なわれることがあります。
（撮影前には必ず義歯を外してください）
- ・DIBキャップ（磁石式のバルーンカテーテルキャップ）（事前に取り外してください）

造影剤使用

MR I 用造影剤とは、MR I 検査の際に、静脈内に注射し画像を見やすくして病気の診断を正確にするための薬です。病気の種類によっては、その診断や進行の程度の判断、治療方針決定のために造影剤が必要となります。造影剤を使用した場合、(1)～(4)のような副作用が出現する可能性があります。造影剤検査の必要性がこのリスクを上回る場合に造影剤を使用することになります。

- (1) 約1～2%で、吐き気、嘔吐、気分不快、蕁麻疹、かゆみ等軽度の副作用があります。
呼吸困難等の重い副作用がおき、ごくまれに死亡例も報告されています。
- (2) 1万～10万人に1人の割合で血圧の低下によるショックやのどの粘膜の腫れによる呼吸困難等の重い副作用が出現し、ごくまれに死亡例も報告されています。
- (3) 授乳中の方は母乳にこの薬が分泌されますので、造影剤注射後24時間は授乳を避けてください。
MRCP検査の場合は、造影剤内服後48時間は授乳を避けて下さい。
- (4) 造影剤使用後、蕁麻疹や皮膚のかゆみ等、普段と変わった症状が出た場合は、外来を受診するかご連絡、ご相談ください。

現在のところ、副作用の発生を正確に予知する手段がありませんが、もし副作用が起きた場合は適切な処置をとります。下記の項目に該当する場合は、造影剤の使用ができなかったり、使用に制限が加わることがあります。

- ①以前にMR I 用あるいはCT用造影剤で具合が悪くなったことがある。
- ②気管支喘息やアレルギー体質と診断されている。
- ③重い腎臓の機能低下がある。あるいは、腎臓の病気があると診断されている。
- ④血縁者で造影剤による重篤な副作用が出たことがある。

説明日

年

月

日

説明医師

私はMR I 検査の説明と副作用の可能性について説明を受け理解しましたので、MR I 検査を受けることに同意いたします。

同意をした日

年

月

日

患者様の署名

代諾者の署名

続柄

MRI検査に関する説明・同意書

患者番号

患者氏名 0
生年月日 0 年 0 月 0 日
性別 ☐ 男性 ☐ 女性

医療法人 東札幌病院
住所 札幌市白石区東札幌3条3丁目7-35
電話 011-812-2311

検査予定日 0 年 0 月 0 日 検査部位 0

MR I 検査は、非常に強い磁石と電波を使って、体の断面を撮像する検査です。

①MR I 検査ができない方

- ・心臓ペースメーカー、人工内耳などの電子機器を装着している方
- ・金属を使用したアイシャドウや化粧品、入墨（火傷を生じる可能性があります）

②下記の項目に該当する方はMR I 検査を行うことが危険です。

- ・脳動脈瘤術後でクリップが使用され、かつ、安全にMR I 検査ができる確認が取れない。
（多くはチタン製などの弱い磁性体クリップで安全にMR I 検査ができます）
- ・金属のステントを挿入して間もない（おおむね6週間以内）
（MR I 検査対応のステントであればできます）
- ・その他の磁性体金属が体内にある、又ははずせない

③下記の項目に該当する方は注意が必要です。

- ・閉所恐怖症、小児（薬を使った入眠処置が必要となることがあります）
- ・妊娠中または妊娠の可能性のある方は、検査を避けてください。
- ・歯科チタン製インプラントは非磁性体であり、MR I 検査において安全とされていますが、
磁性体アタッチメント、磁石を使用した義歯では磁石の吸引力が損なわれることがあります。
（撮影前には必ず義歯を外してください）
- ・DIBキャップ（磁石式のバルーンカテーテルキャップ）（事前に取り外してください）

造影剤使用

MR I 用造影剤とは、MR I 検査の際に、静脈内に注射し画像を見やすくして病気の診断を正確にするための薬です。病気の種類によっては、その診断や進行の程度の判断、治療方針決定のために造影剤が必要となります。造影剤を使用した場合、(1)～(4)のような副作用が出現する可能性があります。造影剤検査の必要性がこのリスクを上回る場合に造影剤を使用することになります。

- (1)約1～2%で、吐き気、嘔吐、気分不快、蕁麻疹、かゆみ等軽度の副作用があります。
呼吸困難等の重い副作用がおき、ごくまれに死亡例も報告されています。
- (2)1万～10万人に1人の割合で血圧の低下によるショックやのどの粘膜の腫れによる呼吸困難等の重い副作用がおき、ごくまれに死亡例も報告されています。
- (3)授乳中の方は母乳にこの薬が分泌されますので、造影剤注射後24時間は授乳を避けてください。
- (4)造影剤使用后、蕁麻疹や皮膚のかゆみ等、普段と変わった症状が出た場合は、外来を受診するかご連絡、ご相談ください。

現在のところ、副作用の発生を正確に予知する手段がありませんが、もし副作用が起きた場合は適切な処置をとります。下記の項目に該当する場合は、造影剤の使用ができなかったり、使用に制限が加わることがあります。

- ①以前にMR I 用あるいはCT用造影剤で具合が悪くなったことがある。
- ②気管支喘息やアレルギー体質と診断されている。
- ③重い腎臓の機能低下がある。あるいは、腎臓の病気があると診断されている。
- ④血縁者で造影剤による重篤な副作用が出たことがある。

説明日 0 年 0 月 0 日 説明医師 0

私はMR I 検査の説明と副作用の可能性について説明を受け理解しましたので、MR I 検査を受けることに同意いたします。

同意をした日 年 月 日

患者様の署名 代諾者の署名 続柄